

H25年度秋田大学研究者海外派遣事業により 実施した研究・教育活動の成果報告について

平成 27 年 3 月 3 日

所属・職名：母子看護学講座 助教
氏 名：吉田倫子

派遣先機関名：Royal Institute of Health Science 王立健康科学院
(国名：ブータン王国)

派遣期間：平成 25 年 8 月 12 日～平成 25 年 9 月 6 日(26 日)

研究課題・目的：1. 妊産婦死亡率や乳児死亡率の高い原因を明らかにして対策を立てる。
2. 助産師教育についてブータンと日本との比較を行い、ブータンにおける助産師教育の改善点を明らかにする。

□研究成果(列記願います)

- ・平成 25 年度 山形大学校友会事業 山形大学卒業生講演会にて、シンポジストを務めた。
テーマ：幸せの国ブータンの周産期医療の現状と課題

□教育活動等(列記願います)

- ・平成 25 年度と 26 年度の Royal Institute of Health Science からの教員来日に際して、研修プログラムを立案、講義、世話人を担当した。
- ・平成 26 年度より、看護学専攻 4 年次の選択科目「海外看護協力」を担当している。
授業内容：海外看護協力の実際—ブータンにおける母子保健の現状と課題—
- ・平成 26 年度秋田県立花輪高等学校へ出張講義(H26 11 月, 鹿角市)
テーマ：幸せの国ブータンの母子保健の現状と課題

□海外派遣事業中の教育・研究活動が、帰国後の研究等の活動にどのように反映されたか 概括ください。

1 か月間の英語のみの生活で、英語力が伸び、外国人との交流や交渉、ディスカッションなどの社会・文化的な能力が非常に身についた。その結果(この研修とは別口のものだが)、帰国後にイギリスで国際学会があったが、のびのびと研究報告やディスカッションを行うことができた。また、教員として担当できる授業分野が増え、学生に教授できる内容の広がりを感じる。